令和８年度第４回瑞浪市総合計画推進委員会　会議録

１．日時　　令和８年１０月２２日（木）　１０：００～１１：２５

２．場所　　瑞浪市保健センター３階大会議室

３．出席者　　景山　英明
林　　淳
大宮　康一（会長）
谷　　佳樹
堀尾　憲慈
佐伯　さほり（副会長）
安藤　友美
小木曽　みどり
［名簿順、敬称略］

４．欠席者　　松井　廉
［名簿順、敬称略］

５．事務局　　加納　宏樹（みずなみ未来部長）
工藤　雄一（企画政策課長）
坂﨑　慎一郎（企画政策課長補佐兼企画政策係長）
加藤　大明（企画政策課企画政策係）

６．日程　　１．会長あいさつ
２．議事
（１）第３回会議録（案）について
（２）各事業の委員会総合評価について
（３）意見書の構成について
３．その他

１．会長あいさつ

２．議事

（１）第３回会議録（案）について【資料１】

＜意見、質問等なし＞

→発言者の氏名は伏せ、市ホームページで公表する。

（２）各事業の委員会総合評価について【資料２】

１．スクールサポートスタッフ配置事業

（委　員）　学校の仕事の中でＡＩはどのように活用されているか。

（事務局）　授業の資料作成、プレゼンテーション資料作成等で活用されている。

（委　員）　ＡＩを適切に使用することで、教職員の負担軽減を図る手段として浸透していくことが望ましい。先生方は個人の判断でＡＩを活用されているのか。

（事務局）　学校から支給されているパソコンにＡＩが導入されている。学校での利用ルールについては、事務局では把握していないが、先生方が必要に応じて活用されていると承知している。

（委　員）　目標指標では「１ヶ月の時間外勤務時間が４５時間以下の教員の割合」となっているが、教員ごとに元々の残業時間数が違うと思うので、個々の残業時間がどの程度減り、どれだけサポートになっているのかということも把握していかれるとよいかと思う。事業の必要性はあると考える。

（委　員）　サポートのあり方について、単なる印刷業務のみならず、電子機器が広く普及している現在において、操作や活用方法をしっかりとサポートできるスタッフの配置は重要であると考える。

→委員会総合評価はＢとする。

２．産後ケア事業

（委　員）　事業評価シートにて「出生後１年以上経った母子に対しての追跡調査なり、追加での支援体制はどのようになっているか」、「各型（宿泊型、訪問型、通所型）のニーズはどのようか」、「利用したくてもできない人の状況はどのようか」と質問があったため、事務局にお答えいただきたい。

（事務局）　３点について担当課に確認をしたため、事務局よりご説明させていただく。

出生後１年以上経過した母子に対しては、相談事業や健診等母子保健事業において切れ目なく支援が提供される体制となっている。

ニーズについて、数値は把握していないが宿泊型はゆっくり休息を取ったりケアを受けたい方、通所型は日中の休息目的とケアを受けたい方、訪問型は自宅でケアを受けたい方が利用されている。

利用したくてもできない人の状況については、妊娠後期の面談や産後の家庭訪問で産後ケアの利用希望を確認しているが、現時点において利用したくてもできないという方の状況は把握していない。

（委　員）　目標指標が「利用希望者の利用率」となっており、実態を適切に反映できているかと

いう懸念がある。例えば、対象者が１，０００人いて希望者が１０人しかいなくても、その１０人が利用すれば１００％になってしまい、残りの人数の状況が見えなくなる。利用したくてもできていない方の状況を適切に把握し、そこから新たなニーズや対応策を模索していく必要があるのではないか。本件について回答を求めるものではないが、今後の取り組みの課題として担当課で検討いただきたい。

希望者の数に左右されてしまう目標指標では取り組みそのものが反映しづらい。担当課が実際に頑張ってみえることは承知しているが、その努力や状況が反映されるような目標設定が重要である。

（委　員）　Aにするか Bにするか非常に悩んだところであるが、少子化が進んでいく中で、子どものために、本当に必要な事業であると改めて感じた。よって必要性をAに修正したい。→その結果、委員会総合評価をAに変更

（委　員）　どれだけニーズがあるのかという数の把握も重要である。また、その中で具体的なニーズや、家庭環境などの状況についても把握していただければと思う。

→委員会総合評価はAとする。

３．ミライ創ろまい課プロジェクト推進事業

（委　員）　目標指標を「参加者のｍＧＡＰ（修正地域参画総量指数）の上昇」とされているが、「 ｍＧＡＰ 」という目標指標は市民には分かりづらい。事業自体は大変重要なものであると考えるが、目標指標については再検討されてはどうか。

（委　員）　岐阜大学の学生が本事業に関わる機会があったり、私が成果発表の場に参加させていただくことがあった。多くの高校生が関わっており、生き生きと取り組んでいる様子を見ると非常に良い事業であるため、個人評価はAとした。

目標指標について、話にも出ているとおり、再検討をされた方がよいのではないかと思う。元々意欲が高い学生が積極的に活動したにも関わらず、実績に反映されにくい目標指標では残念に感じる。分かりやすく適切な目標指標の設定を改めてお願いしたい。

→委員会総合評価はＢとする。

４．地域魅力発信事業

（委　員）　個人評価はＢとした。本事業は移住者数を目標指標としたプロジェクトであり、ぜひ推進していただいて少しでも瑞浪市の人口増加に寄与していただければと思う。

なお、移住者への補助はどのようかお伺いしたい。

（事務局）　地域魅力発信事業においては、移住に対する補助事業は計上していないが、別事業において、移住された方に対する補助金や空き家の改修費用の補助等の支援をさせていただている。

（委　員）　移住される方の居住地域は、どのあたりが増えているか。

（事務局）　肌感覚ではあるが、明世地区、稲津地区、瑞浪地区で増えている。

（委　員）　若い方たちが「田舎が好きだ」と言ってくれれば大きなアピールになるし、高校生等が活動する中で、瑞浪の良さを感じていただき、地域の魅力を伸ばしていくことができれば、瑞浪の人口増加につながるのではないかと考える。

（委　員）　評価のところにも書かせていただいたが、瑞浪市出身の有名人や学者、あるいは文化人の方々を含め、なかなかイメージが湧いてこない。そうした方々の発掘は、今まで行ったことはあるか。

（事務局）　具体的に発掘事業のような形で行ったことはないが、市とのご縁をきっかけに観光大使を担っていただくことはある。

→委員会総合評価はＣとする。

５．瑞浪駅周辺再開発事業（駅北地区）

（委　員）　今後も市民に向けたわかりやすい情報発信、丁寧な説明を継続していただきたい。

→委員会総合評価はＢとする。

６．老人憩いの家管理経費（指定管理）

（委　員）　目標値には届いていないが、各事業所においてさまざまな取り組みを行い、利用者を増やそうという努力が感じられたため、個人評価はＢとした。

一方で、対象者が６０歳以上となっている点については疑問を感じている。私の勤務先では、ほぼ全員が再雇用され、６５歳まで働いている。また、６５歳以降の方でも、公民館に行ってサークルに入ったり、地域のコミュニティに入ったり、仲間と一緒にゴルフに行ったりしている。そのため、無理に利用者数を目標指標とする必要はないのではないかと感じた。

（委　員）　事業の対象者が、かなり前の社会を反映した年齢設定になっているのではないかと感じた。ニーズを把握したうえで、対象者の設定や目標指標の設定を検討されるとよい。参考までにお聞きするが、瑞浪市役所では何歳まで勤められるのか。

（事務局）　定年延長により段階的に延ばしており、最終的には６５歳となる。

→委員会総合評価はＣとする。

７．東濃中部病院事務組合負担事業（病院事業）

（委　員）　病院の状況がわからなかったため、評価をするうえで判断が難しかった。

（委　員）　市民の皆様に十分に理解していただけるよう、病院の運営方針や取り組み、現状と課題などについて、適切かつ分かりやすい情報発信に努めていただきたい。それが、市民の理解と信頼を得ながら、地域に支えられる病院運営につながっていくものと考える。

→委員会総合評価はＢとする。

８．中小企業販路開拓支援事業

（委　員）　個人評価はＢとした。高齢化や後継者不足などを理由に廃業を余儀なくされる事業者が増えている中、本事業を中小企業や零細企業にも広く活用していただけるよう、周知や支援体制の充実を図り、積極的に推進していただきたい。

（委　員）　事業評価のコメント欄で、補助上限の見直しについて記載されているがご説明お願いしたい。

（委　員）　事業者は、見本市への出展により自社商品をＰＲに取り組んでいる。出展に当たって

は出展料が必要になる場合があり、本事業による補助は、コメント欄に記載した内容（見本市出展：１社上限３０万円、２小間迄）となっている。例えば名古屋のポートメッセでは、以前の出展料は１小間１～２万円であったが、現在は１小間２．５万円程度となっている。出展スペースを広げるため複数小間借りようと思うと当然費用はかかる。また、出展料は開催場所によって異なる。東京であれば何十万円、また海外となると何百万という見本市もある。他にも商品の運搬費用、宿泊料等、出展にあたって諸々の費用がかかるため、少しでも事業者の負担を軽くし、制度を活用しやすくするために補助額の見直しを検討いただけたらと思い記載させていただいた次第である。

（委　員）　私も仕事の関係でポートメッセや東京ビッグサイトに行ったことがある。大きな企業はたくさんの場所を確保し、立派な看板を作って目立っている。そうした中で、小さい企業は埋もれてしまう。公的支援によって、地元の産業を広くアピールできることは良い機会になると考える。

→委員会総合評価はＣとする。

９．インバウンド観光コンテンツ造成事業

（委　員）　瑞浪市を通過するだけではなく、一定期間滞在してもらい、バサラ、歌舞伎、米作りといった瑞浪市ならではの体験をしていただけると、海外の方も楽しいのではないかと感じた。

（委　員）　観光においては、地域ならではの体験を提供することも重要なコンテンツの一つであると考える。今後は観光協会で事業を引き継いで取り組んでいかれるとのことなので、そちらにも期待したい。観光協会の会長はどういった方が担われているのか。

（事務局）　民間の方に担っていただいている。

（委　員）　行政と連携を図りながら、民間ならではの視点や発想も取り入れ、より効果的な取り組みを進めていただきたい。

→委員会総合評価はＢとする。

１０．農産物等直売所管理経費（指定管理）

（委　員）　きなぁた瑞浪は、農産物販売所としての役割に加え、観光施設としてのニーズも高いと考える。この地域は陶器の産地であるため、陶芸体験であったり、また、近くに農園があるということもお聞きしたので、そういったものを観光と絡めながら、指定管理の中で企画事業として進めていただければと考える。

→委員会総合評価はＡとする。

１１．デマンド型交通運行事業

（委　員）　公共交通は、収益性だけでは評価できない、市民の暮らしを支える重要なインフラである。民間の視点だけでなく、行政が主体的に地域住民の移動を支えていくことが重要であり、そうした取り組みが地域の活性化にもつながると考える。

事業評価シートのコメント欄にも記載があったが、公共交通は商工観光課でなく、インフラ事業を所管する部署が担うことで、より効果的に取り組みを進められるのでは

ないかと考える。市民の移動手段の確保という観点から、所管部署の見直しも含め、ご検討いただきたい。

（委　員）　公共交通は収益を上げることが難しい分野であるが、収益性のみでその必要性を判断できるものではない。市民の生活を支える重要な社会基盤であることから、自治体と交通事業者が十分に連携し、協力しながら維持・充実に取り組んでいく必要があると考える。

また、関係各課が連携し、市の魅力や地域の観光資源を積極的に発信することで、公共交通の利用促進や利用者数の増加につなげていただきたい。公共交通の充実は、幅広い世代の生活に関わるものであり、さまざまな分野において相乗効果が生まれることも期待できる。

→委員会総合評価はＣとする。

１２．エネルギー利用最適化事業

（委　員）　委員として参加させていただき、様々な事業の説明を受ける中で、まだまだ知らない制度があると感じた。

（委　員）　エネルギーは市民生活に欠かせないものであることから、関連する制度や取り組みについて、市民に分かりやすく伝わるよう、今後も丁寧な情報発信に努めていただきたい。

→委員会総合評価はＣとする。

（３）意見書の構成について【資料３－１】【資料３－２】

＜意見、質問等なし＞

３．その他

・第５回瑞浪市総合計画推進委員会の日程について

１１月５日（木）１３時３０分より　保健センター３階大会議室

以上